

FM 今週のポイント (1月15日)

- *年始の急騰後、先週は小康状態になりました。週末にかけては1ドル111円台前半までの円高が進行して日経平均株価の上値を抑えた格好です。それにしても、米国株の上昇には凄まじいものがあります⇒「メトルアップ」と言う言葉も流れ、通常感覚ではついていけない高見に来ているのかもしれませんが。そんなNY株高にシカゴ連銀も警鐘を鳴らしています。シラー式PER (CAPEレシオ：過去10年間の1株あたり純利益の平均値をインフレ率で調整した実質純利益でPERを計算する)が過去3番目の異常値(33.57倍)まで上昇しています。シカゴ連銀は、ご丁寧にも現状の金利の低さがPERの上昇を許容している旨のフォローをしています。歴史的な割高水準で推移していることは間違い無さそうです。シカゴ連銀の指摘の通り、現状の株価は長期金利水準の低さが株価を押し上げていることは間違いなくと思います(景況感拡大の状況でも物価が上昇しないために中央銀行は過度な引き締めを行わない=ゴードロックスバイアス)。
- *しかし、じわじわと長期金利が上昇する気配があります。米10年債利回りは、先週一時、2.593%まで上昇しました。上昇の背景(きっかけ)は、9日の日銀による10年超国債買い入れオペです⇒前回比100億円減額されたことがサプライズとなった模様です(需給逼迫(超長期金利の過度な低下)がない中での減額であったためサプライズ)。このオペを受けて日銀が出口戦略を急ぎだしたとの思惑から、米長期債が売られた格好です(当日の日本の長期金利は1bp上昇しただけであり、当日の金利差から米長期債が売却されるとは考えられず、日銀の出口へのスタンスが意識されたものと思われる)。もう一つが、中国当局者の発言として、「米国債投資に慎重姿勢」と報じられたことが指摘されています(その後中国当局は報道を否定した)。いずれにしても、風にそよぐ柳を幽霊に見間違えるような、過剰な反応であったと思います⇒考えてみれば、それだけ現状の低金利に怯えている投資家が多いことを示しています。
- *今後、金利が上昇する場合のきっかけになりそうな筆頭が、原油価格です。先週は、一時、WTI価格が64.3ドルまで上昇し、チャートの三尊底パターンの水平なネックライン(2015年5月の高値水準)を上抜けた形となり、100ドル近くまで水準訂正しても不思議ではないチャートパターンとなっています。ファンダメンタルズ的には70ドル前後が良い所と思われますが、年内のアラムコ上場と絡めた思惑がWTI価格を過度に押し上げる可能性もあり要注意です(100ドルまで上昇すれば、インフレ期待が高まり、長期金利も3%を大きく超えてくる可能性が高い)。年始、北朝鮮リスクも緩和して順風満帆と思われた世界の株式市場ですが、比較的早い時期に長期金利の上昇=ゴードロックスバイアスの修正と相対することになるかもしれません(あくまでも一時的な修正であり、長期上昇相場見通しは不変)。

『 重要な注意事項 』

- この資料は、市場の現状の説明資料の一部としていちよしアセットマネジメントが作成し、いちよし証券がいちよしアセットマネジメントとの営業代理契約に基づいて提供するものです。未許可での使用、複製の作成や発表は法律で禁じられております。
- この資料は、いちよしアセットマネジメントが信頼できると判断した情報源からの情報に基づいて同社により作成されたものですが、過去から将来にわたってその正確性、完全性を保証するものではありません。
- この資料は、投資の参考となる情報の提供を目的としたものであり、個々の投資家の特定の投資目的、または要望を考慮しているものではありません。
- この資料に掲載されたデータ・グラフ等は過去の実績またはシミュレーションであり、将来の成果を示唆、あるいは保証するものではありません。また、記載された見解等の内容はすべて作成時点でのいちよしアセットマネジメントの判断であり、今後予告なく変更されることがあります。
- 投資一任業務による有価証券投資は、株価の変動により、または発行者の経営・財務状況の変化及びそれらに関する外部評価の変化等により、損失が生じるおそれがあります。投資運用によって発生する損益はすべてお客様に帰属します。したがって、預貯金とは異なり投資元本が保証されているものではなく、一定の運用成果を保証するものでもありません。

○諸経費および投資リスクについて

- 投資顧問料については、契約資産に対して年金料率で最大0.4536%(税込み)の報酬をいただくこととなります。また、契約により所定の成功報酬をいただく場合があります。その他売買手数料等の間接的な経費がかかりますが、経費の総額については委託した証券会社により手数料率等が異なるため、上限額等を表示することができません。
- お客様のために行う取引については、株式、新株予約権付社債、公社債等の有価証券に投資しますので、国内外の経済・政治情勢、金利変動、発行体の業績や財務状況等の変化の影響により、投資した有価証券の価格が下落し、損失が生じるおそれ(外国証券は、為替相場の変動等により損失が生じるおそれ)があります。
- 信用取引やデリバティブ取引を行う場合は、差し入れた証拠金等の金額以上の取引を行う可能性があるため、原資産となる有価証券や指数等の価格変動により、差し入れた証拠金等を上回る損失が生じるおそれがあります。また、デリバティブ取引等の額の証拠金等の額に対する比率は投資方針や市場の動向等により変化するため、その比率を事前に示すことができません。
- 諸経費およびリスクについての詳細は、契約締結前交付書面をよくご覧ください。

商号等： いちよしアセットマネジメント株式会社
金融商品取引業者 関東財務局長(金商)第426号
加入協会： 一般社団法人 投資信託協会
一般社団法人 日本投資顧問業協会